



## 農用地における基盤整備の状況と 今後について

政進会 池龜 幸男



本郷地区の水田

**問** 海老名市では、農業を維持・促進するために農業振興地域を定め、その中で特に今後継続的に農地として利用すべき区域を農用地に指定しました。平成23年に農用地に指定された本郷上谷津・中谷津地区では、用水路、暗渠排水、転倒堰、農道の整備などが予定されていたと思います。この農用地の基盤整備の状況と今後についてお伺いします。

**答** (市長) : 用排水路 転倒堰の整備は終わり、今年度は暗渠排水、来年度以降は農道の整備を予定しています。

**問** (経済環境部長) : 今年度行っている暗渠排水工事については、十分な効果が図れるように地権者や生産者と立ち会いの上、排水管の設置位置などを詳細に協議しながら実施しています。

**問** 昨年度、一部分で暗渠排水工事を実施したようですが、水はけの悪い部分もあると聞きました。今年度で暗渠排水の整備が完了し、もし成果が現れなかつた場合、さらに市で整備をする考えはありますか。

**答** (経済環境部長) : 効果が現れなかつた箇所などが生じた場合、原因究明を行い、対応方法を検討していく必要があると考えています。

**問** 金坂川に「藻」が増えて流れが悪くなっている状況ですが、その「藻」を除去する予定はありますか。

**答** (経済環境部長) : 今年度中に、地元の生産組合長と現地での確認・協議を行い、除去作業を開始する予定でいます。

その他の質問

- ・コロナ禍における学校行事と30人学級について



## 路面下空洞について

公明党 福地 茂



## コロナ禍における来年度予算編成について 市民の知る権利に応えるための取り組みについて

じちじの会 吉田 みな子

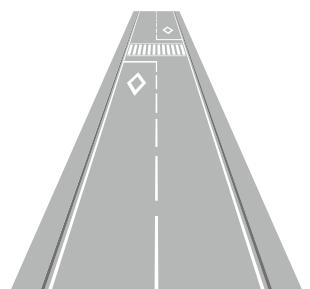
**問** 路面下空洞についてお尋ねをいたします。この路面下空洞は、地表面にまったく変化をもたらさず、突然道路が陥没してしまうことがあります。大規模な陥没事故としては、平成28年11月8日に福岡市の博多駅前で起きたケースが挙げられます。幅27メートル、長さ30メートル、深さ15メートルという規模の陥没でした。最近では令和2年10月に東京都調布市において陥没事故が発生しました。10月18日に1回目の陥没が発生し、その後、陥没場所の近くで東京外かく環状道路のトンネル工事をしていた東日本高速道路が周辺を調査したことにより、近くに新たな空洞が見つかったとのことです。そこで、これまで市内において道路が陥没したことはあるのでしょうか。

また、海老名市道の総延長は450キロメートルほどになると聞いております。この海老名市道を短期的に調査するのは現実ではありませんし、調査費用も高額になります。そこで、費用の平準化を図るために、調査路線を分割して順次調査を行うこととしてはいかがでしょうか。

**答** (道路担当部長) : 路面下空洞によりアスファルト舗装が破損したケースは、平成28年度から現在までの5年間で8件確認しており、緊急対応しています。いずれも小規模な舗装の破損で、道路の陥没までには至っていません。

ご提案の調査ですが、約450キロメートルの中には普段あまり使われていない道路もあり、これまでの8件も補修程度で十分対応できていることから、全路線を対象にした路面下空洞の調査までは、現在のところ考えておりません。

- ・他の質問
- ・海老名市個人番号カードについて



**問** 市長などが出席する市内の意思決定の場である「最高経営会議」の議事録が作られていないことが情報公開をして分かりました。議事録が作られないなければ、意思決定のプロセスを検証することができず、市民の知る権利に応えることも、行政の説明責任を果たすこともできません。最高経営会議の議事録を作成していない理由をお伺いします。

**答** (市長) : 最高経営会議は各課から積み上げたもののか議会へ提案するものはすべて案件としており、議論は少なからずありますが、各課、各部の意見を尊重しております。結果を見れば分かるため、会議結果のみとしています。

**答** (文書法制担当部長) : 記録を残すということ、どういった形式で残すかは、別の次元の話であり、現在のやり方で支障はないと考えます。